



規格に合わないものを不良品という。
形が少々歪であったりするだけで
それは商品として並ばされることはない。
品質に決して劣るものがないとしても。
社会にも規格というものがあるのだとすれば、
それに合わない者をもの不良と呼ぶのかも知れない。
規格外のもの。

人と違うことをしたがる個人主義もそこにはあるだろう。
人がいいとせばその逆をする気まぐれもあるだろう。
そして反抗することで己の存在意義を確認することも。
不良への扉はいたる所に開かれている。
家から、学校から、そして職場から。
禁止されていることをすべて手掛ける地元の先輩。
そんな彼らの姿の中に不良性を見出し、
最初の一歩を踏み出す者も多いだろう。
彼らは独自の暗号とも呼べる言語を話し、
独自の衣装をまとい、周囲と同化することを拒絶する。

しかし不良で居続けることは生半可な根性では勤まらない。
不良でいるということは不都合であり不自由なのだ。
規格に当てはまるよう求められる中、そこからはみ出て生きる。
出る杭は打たれ、尖った角はやがて繰り返す
衝突の中で摩耗、丸く収まっていく。
不良を卒業していくものの何と多いことか。
不良とは生き方であり、主義なき主義であり、
季節でもファッションでもない。
転がり続けるとボブ・ディランは歌った。
誰かになろうとするなどブコウスキーは吠えた。
決して大樹に寄りかかるな、大きい物には巻かれるな。
牙を研げ、拳を固めろ。
Walk on the wild side, ワイルドサイドを歩け。

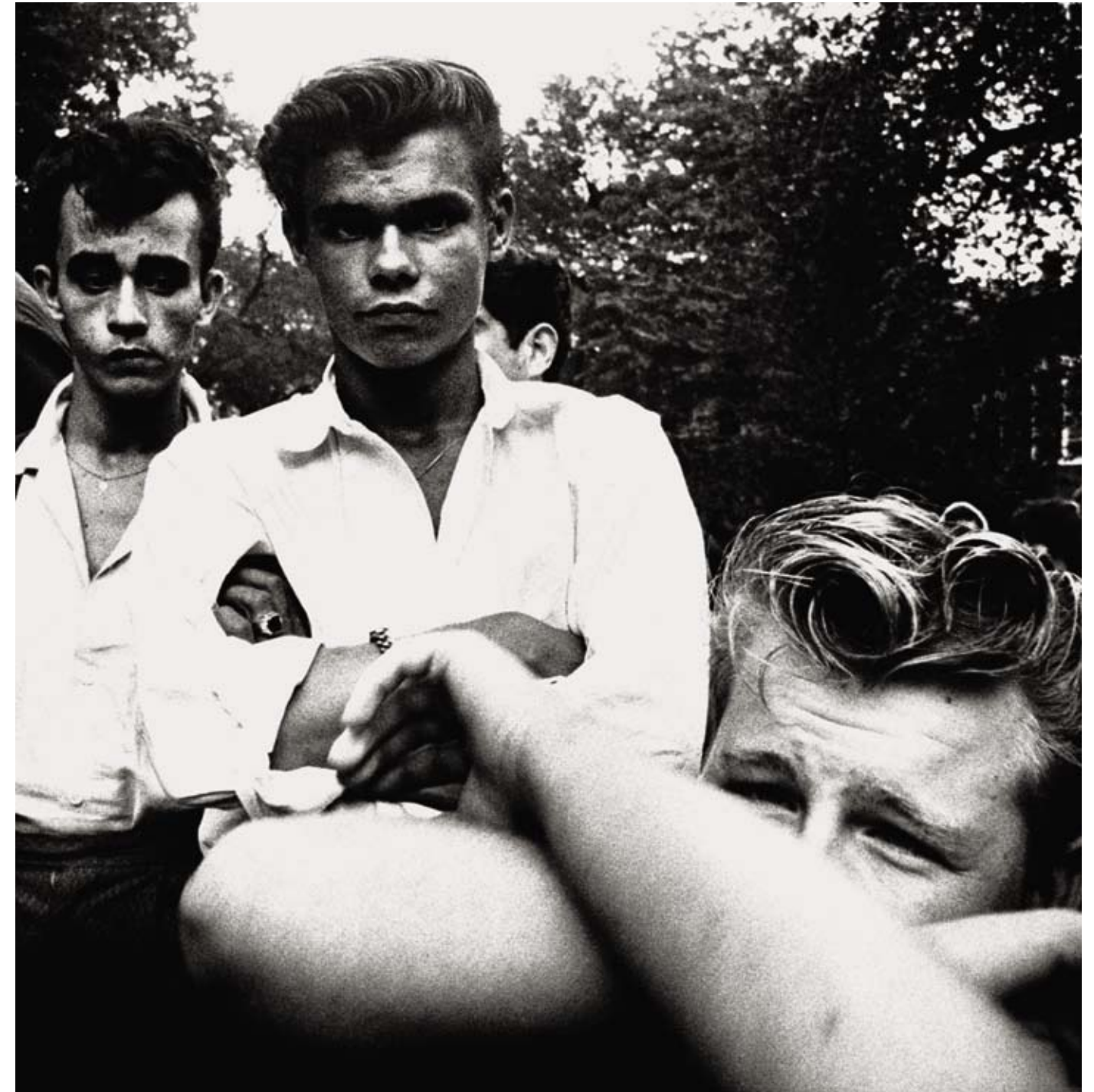
OUTsiderSTORY



Boy Close Up Smoking, Chicago 1961
©Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)



3 Boys By Fence, Chicago 1959
©Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)



3 Boys, Chicago 1959
©Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)

50年代後半～60年代前半、
シカゴ界隈のティーンエイジャーの日常を
間近で切り取った写真家、ジョセフ・スターリング。
彼がフォーカスしたシーンには、
古き良きアメリカン・バッドボーイ達の
真の姿が描写されている。

JOSEPH STERLING “AGE OF ADOLESCENCE”

Photos: Joseph Sterling Text: Kunichi Nomura
Edit: Hiroshi Kagiyama (EAfter) Thanks: M+B Gallery (www.mbfala.com)

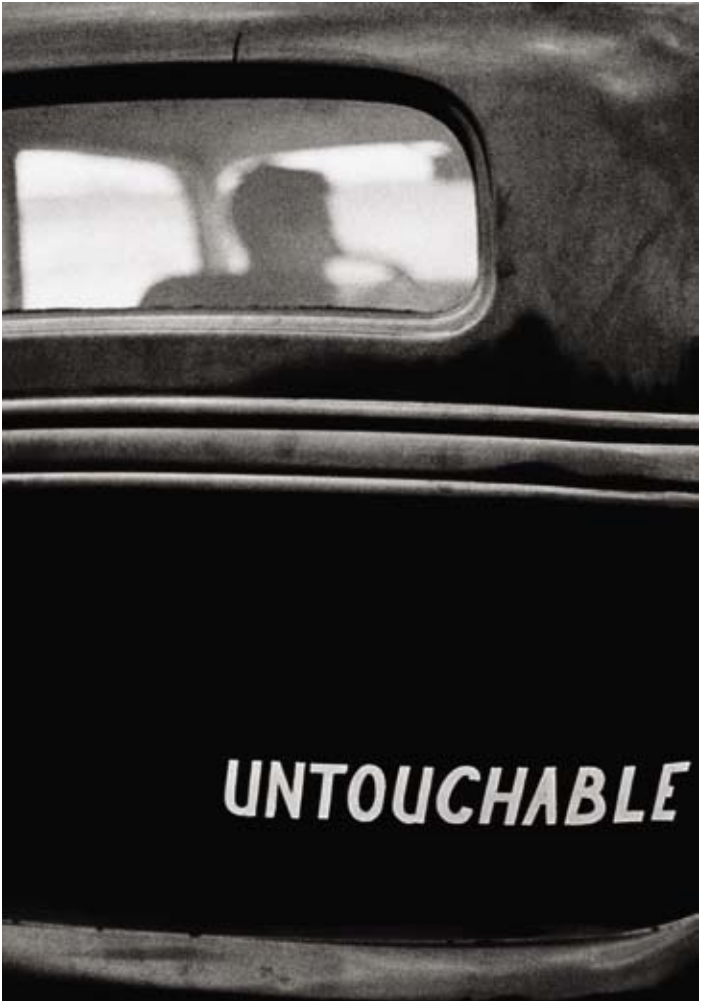
OUTSiderSTORY_003



Gas Station, Chicago 1959
© Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)



3 Boys By Fence, Chicago 1959
© Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)



"Untouchable," Connecticut 1961
© Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)



Legs On Beach, Chicago 1963
© Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)



"Mr. Cool," Chicago 1960
© Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)



"Chevy Carbs," Wisconsin Car Race 1964
© Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)

活気ついた時代のアメリカン・ティーンネイジャーを、間近で撮影した生き証人

「The Age of Adolescence」表記された冊の写真集がある。1959年から1964年と書かれたタイム

ラインからそれがAdolescence青春期の写真集というだけでなく、アメリカという国自体が青春期と呼べる時代に撮られた写真だということがわかる。ページをめくると現れるのがモノクロの世界に切り取られたまさに青春時代だった中のティーンエイジャー達。第二次世界大戦後の空前の繁栄を過ごし、泥沼化するヴェトナム戦争やフワームーブメントを未来に見据えた、アメリカがアメリカらしかった時代。そんな時代を背景に、ティーンネイジャー達はまさに絵に描いたような青春そのものの姿を写真の上にさらけだしている。無地の白いコシヤツやBDシャツにデニム。リーゼントでこちらを挑発するように見据える一群。サングラスにその目を隠し、煙草の煙を吐き出す背伸びした少年。Untouchable無敵と書き込まれた車。そこには多感な青春時代に入り、クールを装うことでその繊細な心を隠し、できる限り突く張るバッドボーイ然としたティーン達の姿が生きてきた。焼き付けられている。ジョセフ・スターリング、この写真を撮ったフォトグラフアーのことは、ここ日本で知る人はほとんどいない。ランドスケープや建築を撮るフォトグラフアーとして名を上げたスターリングだが、流通している写真集は2005年に発表されたこの本以外にない。そしてこの過去のアー

カイブを集めた写真集の発表によって彼は躍広範囲な注目を集めるようになった。

1936年にテキサス州エルパソで生まれたジョセフが写真を撮り始めたのは彼が11歳のころだった。「従兄が現像とプリントの仕方を教えてくれたんだ。その瞬間に自分の生涯の仕事が何なのかすぐ理解したよ。アートにはいつも関心があったしね。そして高校4年間の間も写真を撮り続けた。その後カレッジでシカゴのインスティテュート・オブ・デザイン(以下ID)出身の教師と出会ってね。その人がIDにはハリー・キャランやエーロン・シスキンドといった優秀なフォトグラフアーが教鞭を取っていることを教えてくれたんだ」

極度にシャイであったというジョセフにとって、写真こそが唯一のコミュニケーションツールであり、その過程で見たハリー・キャランのオブビートな一枚の写真がその後の彼の人生を決定付けた。「IDに進学し、実際に憧れていたハリーやエーロン、そしてフレデリック・サマーのもとで学んだ。IDはかつてドイツにあったハウハウスを継承するものとして設立されたとてもアカデミックな学校だった。私はそこで写真の技術だけでなく、デザインから彫刻、建築にいたるまであらゆることを学ばされた。当時はその重要性が理解できていなかったがそれは後に写真を撮ることにおいてとても役立つものだった。それがなければこの本はなかったと思えるぐらいだね」

IDを卒業し、修士になることを決めたジョセフがその課題として選んだモチーフが青春時代を送るティーンエイジャー達だった。そこには毎日同じ被写体やテーマを長期間ドキュメントすることで有名となったキャラン達の影響も多分にあったことだろう。「ティーンエイジャーを被写体にしたのは、私自身が想像しうるかぎり最も困難な青春をおくったと感じて、その鬱屈とした想いを何とか表現したかったからだ。撮影を重ねることでそうした感情を解きほぐすことができたんだと思う。1959年から64年までかかったこのプロジェクトで、私はおよそ2万2千枚もの写真を撮った。その中から選りすぐった150点あまりが、本としてここにまとめ上げられているんだ」

「IDを片手にシカゴ近郊のドラッグストアや車の中、ビーチ、溜まり場とあらゆる場所でスターリングは彼らティーン達の姿を追った。「午後遅く、階段に座り込んでいる男の子たちを撮影したことがある。彼らは私に気付くと、その1人がフェンスに向かって私に殴りかかり、もう1人がカメラをひったくろうとした。『メエは何してんだ?』と聞かれたよ。私がこのビッグ・プロジェクトのことを説明すると彼らはお金を出してきて、そのうちの何枚かをくれないか?と聞いてきた。その後彼らを見つけたことは2度となかったがね。多くの場合、少年たちは私を無視した。そして気の向くままやりたいことをやっていたよ。おそらく、その頃の私が彼らとそんなに年の離れていない若造に見えたからだろうからね。そしてそれこそ私が望むことでもあった。あるがままをただ写真に焼き付けたかった。そしてこのグ



『Age of Adolescence Joseph Sterling Photographs 1959-1962』
(2005, Greybull Press)

今回紹介した写真などをまとめた、ジョセフ唯一の写真集。1959年から62年までの間にかけて、ティーンネイジャー達のシーンを2万2千枚もの写真を撮り溜めた中から厳選された150点を収録。

JOSEPH STERLING "AGE OF ADOLESCENCE"



2 Boys On Street, Chicago 1960
© Joseph Sterling and Courtesy of M+B (www.mbfala.com)